令和７年第２回
さっぽろ建設産業活性化推進協議会

議　　事　　録

日　時：２０２６年3月１６日（月）１６時００分開会
場　所：ホテルモントレエーデルホフ札幌　１２階　ルセルナホール

１．開会挨拶（小泉建設局長）

建設局長の小泉でございます。本日は、ご多忙のところ、本会議にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。また、皆様には、日頃より私どもの建設行政並びにまちづくりに多大なるお力添えをいただいていますことに重ねて感謝を申し上げます。

さて、建設業を取り巻く環境は厳しい状況が続いておりますけれども、昨年１２月に第三次・担い手３法が全面的に施行され、標準労務費の基準策定や工期のダンピング対策が強化されまして、建設業界の処遇改善や働き方改革を国全体で推進しようということでございます。

札幌市では、重点施策としまして、担い手確保、労働環境の整備、業界全体の生産性向上という三つの柱を位置づけております。

生産性向上につきましては、札幌市の取組が評価され、１月にインフラＤＸ大賞地方公共団体等の取扱部門で優秀賞をいただきまして、私も表彰式のために国交省へ行ってまいりました。また、後ほど説明があると思いますけれども、ＩＣＴ工事の実施件数が約３倍と飛躍的に上昇しました。これも、業界の皆様の積極的なＩＣＴへの取組の結果が出たものでございますので、この受賞は皆様のおかげと思っております。ありがとうございます。

引き続き、生産性向上をはじめとした各種施策の実施を進めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

本日は、「さっぽろ建設産業活性化プラン２０２５」策定後の１年目の取組結果に対して意見交換をすることになっております。課題や情報を共有しながら、官民の関係者が一体となって連携、推進していければと考えております。

ぜひ本日も忌憚のないご意見をたくさんいただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

２．開会挨拶（北海道大学　高野教授）

北大の高野でございます。今日もここまで歩いてまいりましたけれども、車道にも歩道にも雪がなくなってまいりまして、ようやく春が近づいてきたなと実感しております。

今年の札幌圏の雪は大変でした。１月２４日、２５日に教育文化会館で土木学会の支部の発表会があったのですけれども、その日は大変な大雪が降りまして、北大に来て２年目の先生が、こんな日でも発表会はやるのですか、普通だったら全部中止になると思っていましたとおっしゃっていたのですが、発表会は行われました。

特に、札幌圏は、一晩に大雪、あるいは日中に大雪というのが続いておりまして、除雪に直接携わっておられる方以外にも大変なご苦労をされたと思います。それを経て、ようやく春の訪れを迎えられて、うれしい、楽しい気持ちでございます。

世界情勢は不確実性が高い状況になっておりまして、建設工事に関わる材料費、あるいは油などの値上げが今後どうなるのだろうかと戦々恐々としているところです。それに対応した形で、札幌市でも庁舎の建て替えをペンディングするというニュースもありますが、ややもすると、建設コストがこれからどうなるのかという不確実性が高い中で、いろいろな事業を中止するとか少し待つという状況でもありますので、そういうところがうまく回っていって、建設に関わる需要が組み立つような仕事ができて、社会がどんどん回っていくようになればと思っているところです。

そのような中で、札幌圏の皆さんがこのように一堂に会して意見交換をするということは極めて貴重な機会だと思いますので、どうぞ忌憚なく、日頃、思っておられることをお話しいただければと思っております。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

３．意見交換（進行：北海道大学　高野教授）

〇北海道大学）高野教授

それでは、議事次第をご覧いただきたいと思います。

議題１が令和７年度の取組について、議題２が市からの情報提供となっております。

議題１の令和７年度の取組の（１）市の取組状況、（２）業界からの取組状況（各団体への照

会結果）について、事務局よりご報告をお願いします。

【議題１】令和７年度の取組について
以下の資料について、事務局から説明
・資料３：市の取組について
・資料４－１：各団体の取組

〇北海道大学）高野教授
　ただいまご説明いただいた資料４－１では、各団体で取り組まれた内容を一覧表にされています。いろいろと興味深い取組をされており、本来であれば一つ一つ時間を取ってご説明いただきたいのですが、時間の関係でこういう取りまとめとなっております。
　業界の取組状況について、追加的に資料も用意されているようですので、ご説明いただきたいと思います。

〇札幌建設業協会　札幌部会
　私からは、資料４－２のＣＩＣの取組について発言をさせていただきたいと思います。
　先ほど、事務局からもご案内がありましたけれども、ＣＩＣ、建設イノベーション・コンソーシアムという団体を設立いたしました。
　設立の趣旨ですけれども、今も、各業界団体、あるいは個々の企業におきまして、自社の強みやそういった事例を用いて建設業の魅力発信を行っているところですが、自社のアピールはできるものの、建設業全体としての魅力が非常に伝わりづらいというのが従来の課題でした。
　そういった中で、昨年の９月末頃に、建設業界全体を横断したＰＲができる団体をつくらないかというお話がありまして、建設イノベーション・コンソーシアムという団体を設立しました。
　この建設団体の動きにおきましては、建設業協会や青年団体である建青会、また、各発注者などが魅力発信を行っているところですけれども、それが広く一般の方々へなかなかリーチされていないことも設立における問題意識の一つでした。
　そうした中で、建設業の魅力発信を専門に行う新媒体を設立しようという目的でこのＣＩＣを立ち上げ、先月２月２日に正式に会員となっていただく方々にご参加いただきまして、設立総会を開催いたしました。
　新組織というところの囲いに載っているのが現時点で会員としてご賛同をいただいている各団体様でございまして、さっぽろ建設産業活性化推進協議会にもご参加されている一般社団法人北海道舗装事業協会様、札幌市除雪事業協会様、一般社団法人建設コンサルタンツ協会北海道支部様、一般社団法人北海道造園緑化建設業協会様にもご賛同をいただいております。
　会員組織は、随時、幅を広げていきたいという考えでおりますので、もし今日のご説明やいろいろなお話を伺った中で、うちの団体も一緒に仲間に入りたいとのご意向があれば、一番下にある北保証サービス株式会社にご連絡をいただければ幸いです。
　その下の囲いに事業イメージがございますけれども、ＣＩＣという組織では、各企業や団体から、こんな広報の仕方はできないか、ＰＲができないかといった企画を持ち込んでいただいたり、ＣＩＣという団体としてこういうことに取り組んでみたいということを、それぞれ独自の事業や企画の事業を立ち上げながら会員にも周知をさせていただき、実際に実現できるかどうかは費用の面を含めて諸課題がございますので、各スポンサー様に協賛を募り、実現可能であれば実行していくという流れで今後も進めていきたいと考えております。
　ページをめくっていただき、まず、第１弾の事業として、これはＣＩＣ独自の事業として立ち上げたものですが、建設業界の現場を舞台にした縦型ショートドラマをつくろうということになりました。
　今、テレビまたは新聞等で若い方々が情報を取りに行くよりも、ほとんどがスマートフォンで情報収集をするような世の中ですから、昨今、若年層に人気の高い縦型ショートドラマを制作しようという運びになりました。
　とあるまちでの建設現場を舞台にしたストーリーで、建設業のイメージアップをしたいとい

うことで、いろいろな要素を盛り込みながら、スマートフォンでは若手世代へ、テレビでは親世代へリーチしたいということで、今年の１月９日から放映を開始しております。
　１月９日から行っている縦型ショートドラマは、「はれのしごと」というドラマでございます。ＨＢＣで毎週金曜日の深夜０時４３分から５分間、左半分が天気予報、右半分が建設業の縦型ドラマということで、１話７５秒のショートドラマとなっております。
　遅い時間ですから、見逃すこともあろうかと思いますので、放送後は、ＨＢＣさんのホームページや、ＣＩＣで持っているインスタグラム、ＴｉｋＴｏｋ、ユーチューブなどでもアーカイブとして見逃し配信をしておりますので、ぜひ見ていただきたいと思っております。
　こちらは、２次利用期間が放送後から３年間までですので、３年間は自由に見ていただけるような仕組みとなっております。
　このドラマは、先ほどの札幌市からの２番目の動画にもありましたが、札幌市の全面協力を受けまして、実際に屯田・茨戸通の現場で１１月中旬に５日間をかけて撮影し、１月９日から第１０話まで放送しておりまして、３月いっぱいまでの全１２話の放送予定です。
　チラシにＱＲコードを載せておりますので、ぜひ、ＣＩＣ公式でのユーチューブチャンネルに登録いただいて、ご視聴やいいねなどの高評価をしていただければ幸いです。
　ちなみに、今はどれぐらいの反響かという話を受けているのですけれども、ＨＢＣのユーチューブチャンネルの登録数が６万４，０００人ほどいらっしゃるようで、第１０話まで流している中で視聴回数が一番多いのが第４話で６万６，０００回です。登録者数以上の再生回数で、１話平均で約５万回ぐらい視聴されています。それをどう取るかの評価はなかなか難しいのですけれども、第１弾の事業としては、一般の方をはじめ、いろいろな方々にこの建設業の魅力をショートドラマを通じて発信できていると思っております。
　テレビ局や間に入っている制作会社の効果測定を基に、できれば第２弾、第３弾と継続し、建設業の魅力を業界横断でＰＲしていきたいと考えております。
　また、ここには全く載っていないのですけれども、ＰＲの一環として、コンストラクション甲子園というものをやっておりますので、それにも簡単に触れさせていただきます。
　高校生を対象にした建設業のクイズ大会を４年前から始めておりまして、今年で４回目になりました。きっかけは、金融関係のエコノミスト甲子園というものがありまして、それをヒントに建設業でも取り組むことができないかということで、有志で、当初は道東３地区で行ってきたものが、第３回、第４回と全道で仕掛けることができるようになりました。
　三、四年前の立ち上げ当初は、予選から決勝まで、建設会館やホテルを会場にすることで、どちらかというとクローズドな環境の中で高校生や観覧の方を集めてクイズ大会をしていたのですけれども、広く一般の方々にも見ていただきたいということで、昨年の石狩を中心とした地区予選は、昨年１１月２９日にできたばかりのココノススキノのオープンスペースで行い、昨年の第３回決勝、そして、今年１月２４日に開催されました第４回の決勝については、札幌ファクトリーのアトリウムにて広く一般の方々にもご観戦いただきました。コンストラクション甲子園への参加チーム数も年々増えつつ、道外にも波及してきております。
　このコンストラクション甲子園のクイズは、高野先生にも監修をいただきました。
　また、ほかからの引き合いもありまして、昨年から今年にかけては関西や高知などからもコンストラクション甲子園を我々の地区でやりたいというお声をいただき、実際に開催されて、発展の機運が高まってきております。ほかにもいろいろな地区からお声をいただいているので、もしかすると、いずれは全国的な大会になる流れになってきていると思っております。
　そして、土木学会の土木広報大賞２０２５において、この取組がイベント部門の優秀部門賞をいただきました。
　今後とも、北海道発信のショートドラマやクイズ大会のようなもので、若い方々、または親御さんにも建設業の魅力を切れ目なく伝えていきたいと思っております。
　雑駁ではありますが、私からの情報提供は以上です。

○北海道大学）高野教授
　令和７年度の取組についてご紹介いただきました。
　先ほどの一覧表にもありましたように、各団体でいろいろな取組をやっておられるところで

す。札幌市からの説明、あるいは業界団体の取組について、ご質問でも結構ですし、これはぜひ皆さんにＰＲしておきたいということでも結構ですので、ご自由にご発言いただければと思います。
　週休２日工事の発注ということで、週休２日が着実に進んでいるというご説明がありました。冒頭に話をしましたが、除雪に携わる方々は、週の中で２日という形ではないと思うのですが、除雪に携わる方々の休日の実態はどういう状況でしょうか。

○札幌市除雪事業協会
　労基のほうとも話をしましたし、除雪に関しては災害扱いとなっているため、その範囲ではないことになっています。従事している者もそれは自負をして動いていますので、この大雪の中、休みがないときはその状態で動いて、春の時期になれば休んでおりますので、雪が降っているときは２４時間体制でやっております。

○北海道大学）高野教授
　この前、本省の会議でも言ったのですけれども、ぜひ、そういう実態も知っていただく必要があると思います。週休２日工事が増えているからといって、みんながそうなっているわけではないということです。もちろん、労基との関係もあるのでなかなか難しいかもしれませんが、ぜひそういうことを発信していってほしいと思います。
　ほかにいかがですか。

○建設コンサルタンツ協会北海道支部
　札幌市からの発表で、資料の２ページに助成金制度のことがありました。
　この助成金制度は、ますます拡充をしていただき、非常に助かっているわけですけれども、何点か気になるところがございます。
　まず、女性用トイレや更衣室の設置の助成件数が年々減ってしまって、令和７年度はゼロになっていますけれども、これはどうしてかということが１点です。
　それから、私どもの協会でも一部の会員から話が出ているのですけれども、先ほど、工事書類の簡素化の話がございましたが、この助成金の書類の簡素化についてもぜひご検討いただければと思っています。よろしくお願いしたいと思います。

○北海道大学）高野教授
　２点ございましたが、いかがでしょうか。

○事務局
　まず、１点目の助成金の中の女性用トイレについてですけれども、今年度はゼロ件となっております。今までは１２件、８件とあったわけですけれども、実は、助成金制度とは別に、工事あるいは業務そのものの中で、快適トイレの設置費用が工事費等の中で見られるように制度的に変わりまして、そちらでカバーできるので、助成金としてはゼロ件ですけれども、目的としては達成しております。
　２点目が簡素化ということで、助成制度に申請いただく際には、書類をつけていただいたり、何回か書類のやり取りをしたり、少し手間がかかっている部分もありますので、今後も簡素化について検討してまいりたいと思います。

○北海道大学）高野教授
　ほかにいかがでしょうか。
　ＣＩＣについて、協賛・ＣＭ提供の募集ということで資料があるのですけれども、こちらは、今、夜にやっているショートドラマの放送枠でというイメージですか。

○札幌建設業協会　札幌部会
　先ほどの説明では触れておりませんでしたけれども、協賛・ＣＭ提供の募集というのは、今

回の第１段の「はれのしごと」においての協賛枠です。３か月間で放送が終わるのですけれども、１月放送分、２月放送分、３月放送分で、実際に天気予報が流れた後にＣＭを流しているのですけれども、そのＣＭの協賛企業として会社名を出していただけるスポンサーがプラチナスポンサーで、１月が５社、２月が６社、３月も６社いらっしゃいました。プラチナスポンサーとしてこの金額でご協賛いただいた協賛者には、企業名とロゴを出させていただき、ゴールド、シルバー、ブロンズですと、例えば、ＣＩＣで作成しておりますドラマを用いたオリジナルの動画に会社名を入れたり、企業の紹介をしたり、ランクによっていろいろとやらせていただいております。

○北海道大学）高野教授
　わかりました。ありがとうございます。ほかにございませんか。

○建設局土木部長
　今、ＣＩＣのお話もありましたので、ＣＩＣの取組をご紹介いただいたことに対してお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございます。
　今、縦型ショートドラマについてご紹介いただきましたけれども、建設業の魅力発信というのはこの協議会としても進めていきたい内容でもあると考えております。それをテレビドラマの制作という大きなスケールで実施していただいたことは、担い手確保に向けての取組において非常に心強く思っております。
　撮影に関しまして、先ほどお話しいただいたとおり、札幌市の屯田・茨戸通の現場など、実際の工事現場を取材したいということで協力をさせていただきました。ストーリーとマッチしつつ、実際に稼働している現場を選定する中で、たまたまといいますか、いろいろな条件が重なり合う中で無事に現場が見つかりましたが、実際の撮影では、雪が降ったということもあって、なかなか難儀されたとお聞きしたところです。
　そんな中で、先週で１０話まで公開されました。縦型のすばらしいドラマになっていると思いますし、第４話は６万６，０００回の再生という話がありましたけれども、その中にＣＩＣの関係の方も出ておられると聞いております。私も実際に見させていただきましたが、もしまだご覧になっていない方がいらっしゃれば、ぜひ見ていただければと思っております。
　こういった取組については、札幌市としてできることとできないことはありますけれども、できるだけ協力してまいりたいと考えておりますので、ぜひ継続していただければと思います。また、皆様方からもこのような取組をご紹介していただければと思っておりますので、ぜひよろしくお願いいたします。

○北海道大学）高野教授
　ありがとうございます。ほかにいかがですか。

（「なし」と発言する者あり）

○北海道大学）高野教授
　それでは、議題２に移ります。
　市からの情報提供ということで、それぞれ資料が用意されておりますので、ご説明をお願いいたします。

○都市局建築部機械設備課長
　私からは、将来の担い手確保に関するＰＲの取組についてご説明させていただきます。
　資料５－１に基づいて説明します。
　都市局では、これまでも、学校改築工事現場において、児童生徒への現場見学会を実施してきておりますが、今年度に初めて実施した二つの取組をご紹介させていただきます。
　まず、一つ目が出前授業です。
　これは、今年度に給水管の改修工事や学校のリニューアル改修工事を行っている小・中学校

のうち、希望のあった４校の小学校の児童７００名を対象に実施しました。
　講座の中では、児童の関心を引きつけるために、可視化、体験型の内容を数多く取り入れました。具体的に言いますと、透明な配管に実際に水を流して排水トラップの仕組みを見せたり、トイレの半割りのカットモデルを見せたり、さびた古い配管を見せて、だから取り替えなくてはいけないんだよといったことを伝えたりするような講座です。
　途中、見ていた児童から「おおっ」とか「すごい」といった声が聞こえて、どちらかというと先生のほうが驚いていたというところもあるのですけれども、そういったお話もいただきました。
　学校での工事となると、工事は音が出たりするので放課後や休日にやってくださいという雰囲気がまだ残っていることもあって、こういった講座を通して、なぜ工事をやっているのかという必要性を伝えることで、工事に対する理解やイメージ改善にもつながると考えております。
　おまけに、写真に載っているのが啓発品として配付した建設産業活性化プランのロゴ入り軍手ですが、ちょっと細工をしていることもあって大変喜んでいただけました。
　次に、裏面ですけれども、建設業学習体験会を開催しております。
　これは、中学生を対象に我々がどのような仕事をしているのかをじっくりと伝えるといった感じで、少人数でやっております。
　中学校が終わった後の時間に塾へ行くようなイメージで、月１回程度で４日間、真駒内義務教育学校の新築現場において行いました。
　各日にプログラムをつくってやっていたのですけれども、プログラムでは、三角スケールの使い方や、２次元の図面を実際に３次元の模型で表現したり、ＣＡＤを実際に使って絵を描いてもらったりということをしました。
　特に、三角スケールの使い方を教えているときは、社会科で使う地図帳に縮尺が入っていることもあって、これは地図帳でも使えるのではないかという言葉もあって、大変楽しく進めることができたと思っております。
　今回は小・中学生を対象に実施したのですけれども、今後、就職を考える年代の高校生や大学生にどのように業界をＰＲしていくかという課題を持っておりますので、業界の皆さんと相談しながら進めていきたいと思います。
　最後に、どちらの取組も現場で作業されている現場の方の協力をいただきました。引き続き協力をいただきながら、将来の担い手確保につながるＰＲを協働で取り組めたらと思っております。
　説明は以上です。

○北海道大学）高野教授
　ありがとうございます。
　続いて、資料５－２のご説明をお願いいたします。

○財政局工事管理室建築設備検査担当課長
　資料５－２になります。工事書類簡素化要領（営繕工事）改訂概要ということで、土木工事は工事書類スリム化のポイントを作成済みですけれども、営繕工事は、令和７年３月に北海道開発局で工事書類簡素化のポイントが作成されたこともあり、札幌市でも見直しを行うと前回の協議会で説明させていただいておりました。これにより、今回、営繕工事の書類簡素化要領を見直したものです。あわせて、Ｑ＆Ａ資料も作成しました。
　改定の概要です。
　まず、一つ目として、工事書類簡素化要領の一覧表にある全ての書類について押印廃止としました。
　二つ目として、それらの書類については、電子データの提出を可能とし、検査時というのは竣工検査などの工事管理室が行う検査ですけれども、こちらについても紙での改めての出力は不要としております。
　三つ目として、さらなる簡素化の例として下に表がございまして、上から二つ目になります

が、マニフェストは提示のみとし、書類の提出は不要ということを明確にしました。
　そして、表の一番下になりますけれども、工事写真についてです。
　工事写真では、主要材料、主要機器以外の搬入写真は抽出でよいことにしました。
　こちらが主な内容となっております。
　この内容につきましては、各工事部局で必要書類等が若干異なる場合がありますので、改めて、事前に工事主任等との協議をお願いします。
　なお、札幌市ホームページへの掲載は近々に行う予定となっております。
　以上でございます。

○北海道大学）高野教授
　続いて、資料５－３のご説明をお願いいたします。

○建設局土木部長
　私から、建設産業ＰＲパンフレット（案）について説明させていただきます。
　資料５－３をご覧いただければと思います。
　先ほども少し触れさせていただいたパンフレットの案でございますが、こちらは、ほかの業種への入職を希望する方や普通科高校の学生などを対象として、業界が未経験であっても、また、学校で建設業について特別学んでこなかった方でも、一定数、業界で働いている方がいらっしゃるということもあり、その労働環境、この業界に入った経緯、やりがいや今後のキャリアアップなどについて紹介した内容です。
　建設業に関しましては、力仕事であったり、専門職であったりというイメージがちょっと強いかと思います。その労働環境なども知られていないことが多いため、学生の多くの皆さんが就職の選択肢に入れていないという現状があると考えております。力仕事だけでは現場は完成しないこと、また、実際に普通科高校や商業科、情報システム科を卒業している業界未経験の方であっても建設業界で働いており、そういった方々の声をまとめているところが特徴になろうかと考えております。
　このパンフレットにつきましては、いろいろな機関とも連携させていただいておりまして、ハローワークの窓口でも活用していただくことで、今、調整をしているところでございます。
　先ほど来、お話しさせていただいておりますが、本日配付させていただきましたものは、まだ作成途上でございまして、修正があることをお含みおきいただきたいのと、我々は近日中の完成を我々は目指しておりますが、もし皆様方からご意見等がございましたら頂戴できればと考えております。よろしくお願い申し上げます。
　私からは以上です。

○北海道大学）高野教授
　今、資料５－１から５－３までご説明がありましたけれども、各団体からのご意見あるいはご質問がありましたら頂戴したいと思います。いかがでしょうか。

○札幌建設業協会　札幌部会
　私からは、資料５－３のパンフレット（案）についてご発言させていただきます。
　担い手確保の問題に関しましては、我々建設業界だけではなく、今は他産業においても人手が逼迫しておりまして、人材の取り合いになっているのが現状かと思います。各企業でもそれぞれがリクルート活動をされていると思いますけれども、工業系の学生だけではなかなか建設業界には来てもらえないのが実態で、より幅広い方々にこの業界へ来ていただく、知っていただくということに関して、こうしたＰＲパンフレットは必要かと思います。
　一番後ろのページに建設現場支援事務と書いてありますが、今、業界誌にもよく出てくる建設ディレクターとほぼ等しいと思います。各企業でリクルートをしていても、ここの中身を分かりやすく示せるものがないのが現状ですが、中身を拝見させていただくと、実際にどこの業種からこの業種に移られたかという先輩の声が載っていたり、仕事内容や一日の流れがきめ細かに掲載されています。

こういったパンフレットは、業界未経験の方や、ほかの業界から転職したいけれども、建設業界でこういった仕事があることを知っていただくいいツールになろうかと思います。パンフレットとして配るということも必要だと思いますが、できれば、必要に応じて各会社へデータで送付するなど、有効に活用させていただきたいと思いました。

今後も、行政の立場から担い手確保に向けての各種事業をぜひ進めていただいて、我々建設業界側の取組とともに建設業界を一緒に盛り上げていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○北海道大学）高野教授

建設業界に関わったことのない方がいきなり建設現場支援事務といっても、なかなか難しいでしょうし、その辺をどう理解していただくかということですね。

建設ディレクター協会の検索案内も書いてありますが、あちらのホームページにはもう少し分かりやすくいろいろと出ています。

前半部分でどういうふうに現場支援について理解していただくか、あるいは、単に書類のやり取りだけではなく、今だとＢＩＭ／ＣＩＭやi-conの担い手にも期待されているところがあるので、そういう面も少し追加していただくと、もっと魅力が感じられるような気もいたします。少しご検討いただければという感じがしました。よろしくお願いいたします。

ほかに、資料５－１から資料５－３について、追加のご説明でも結構でございますが、何かございませんか。

資料５－１の機械設備課出前授業のところで、学校の先生からのお話として、出前授業後に工事している業者さんに感謝を伝えに行った児童もいたとあります。こういうことがあると、働いている人たちは奮い立ちますね。ぜひ、こういう循環を働いている人たちにも伝えていただくと、今働いている人たちは、一層、やる気を持って、ほかの業界に行くことなくやっていただけるのではないかと思います。ほかに何かございますか。

○札幌空調衛生工事業協会

我々は、毎年、学校改修を何件かやっていますけれども、せっかく隣でやっているのに、完全にシャットアウトをして、危ないから当たり前ですけれども、入れさせないのはもったいないということで、都市局に協力していただき、こういうことをやっております。

聞いた話によると、これからダクトに吊るところにいろいろと描いてもらって、それを吊って天井に埋めるのですけれども、もし描いた子が何十年後にこの業界に来て、改修工事でそれを下ろすというのは何か夢があるなと思って見ていました。ぜひこれからもお願いしたいと思っております。

○北海道大学）高野教授

ほかにございませんか。

（「なし」と発言する者あり）

○北海道大学）高野教授

それでは、以上で意見交換が終了いたしましたので、進行を事務局にお返ししたいと思います。よろしくお願いします。

以　　上